

「教材・指導法データベース公開に向けて」

筑波大学特別支援教育研究センター 左藤敦子

「教材・指導法データベース」の公開に向けて、11月7日にセミナーを開催しました。指定討論として参加いただいた先生方と「データベースへの期待に関する調査」からの共通した要望としては、「教材の対象のわかりやすさ（学年ごとの検索への対応）」「ねらいの表示方法のわかりやすさ」「検索方法のわかりやすさ」などが挙げられました。また、教材の成果や良い点だけでなく、「失敗したことがわかる」「教材を作成した背景がわかる」などの教材や指導法の情報だけではなく、教材研究を深めるヒントがほしいというような要望や、「便利さから易きに走ることへの警戒」という意見も挙げられています。これらの点をすべて盛り込むことは至難の技ですが、試作版のバージョンアップの方向性について議論する貴重な機会となりました。ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

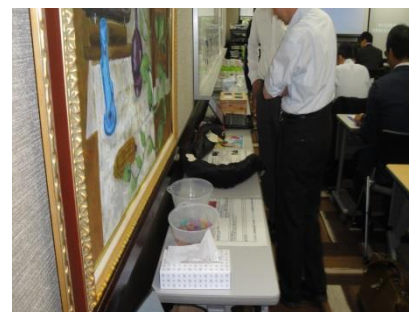


セミナーの話から離れてしまいますが…過日、ベトナムのホーチミンに訪問する機会を得て、インクルーシブ教育センターや市内の特別支援学校などを参観しました。インクルーシブ教育センターでは、実際指導している場面だけではなく、教材準備室をみることができました。その教材準備室の棚には、空き箱や空き缶、テニスボールなどの手に入りやすい身近な素材を使って作られた教材が収められています。一つひとつの教材を手にとりながら、教材の使用方法やねらいを説明を聞きながら、ひとつの情景が頭に浮かびました。それは5附属会議の学習会の情景です。「教材・指導法データベース」にのせる教材について顔をつきあわせて議論している附属特別支援学校の先生方の姿や他障害の領域から紹介された教材を吟味している先生方の生き生きとした表情が重なり、先生方の熱い思いに国境はないのだなと実感した一時でした。

現在、次年度のデータベース公開に向けて、センターでは、附属特別支援学校の先生方と協力をし、著作権等の課題をクリアするための手続きや動画を差し込む作業を進めているところです。それに並行して「教材・指導法データベース」の英語版の作成についても検討しています。ぜひ、一度、データベースを覗いていただければと思っております。新たな教材に出会えるきっかけが得られるかもしれません。

■特別支援教育研究センター主催セミナー

平成 27 年 11 月 7 日（土）午後、筑波大学東京キャンパス文京校舎 337 教室で、センター主催のセミナー、第 19 回 シリーズ特別支援教育の伸展（4）—障害種を超えた教材活用の可能性—が開催されました。特別支援教育研究センターでは、昨年度からセンター事業として、附属特別支援 5 校との連携、協力により、各校の優れた教育資産の蓄積・保存とその発信をめざして教材教具、指導法のデータベース化に取り組んで来ました。平成 26 年度末には 5 校より提供頂いた 49 点の教材データをサンプルとして選定し、センターと 5 附属学校間でデータベースの試験的公開を行い、5 校の教員が閲覧出来るような段階までこぎつけました。平成 27 年度には更に各学校からそれぞれ約 50 件～60 件の教材、指導法のデータの追加を頂き閲覧項目を増やしました。現在項目カテゴリーや検索方法を検討し、教材の動画情報も追加する予定で平成 28 年度の一般公開を目指しております。



セミナー第 1 部では、始めにセンターからこの事業の目的とこれまでの経過、またこの事業がもたらす価値などを

説明したのち、「筑波大学特別支援学校教材・指導法データベースに期待すること」というテーマで、指定討論者としてお招きした千葉県立千葉聾学校、文京区立礪川小学校のお二人の先生から、活用の仕方や参考になる点について貴重なご意見を伺いました。また続いて行われた第 2 部では「筑波大学特別支援学校の特色ある実践事例とその応用可能性」と題して附属視覚特別支援学校（書見台）、大塚特



別支援学校（音声ペン）桐が丘特別支援学校（並列透明筆洗いバケツ）の 3 校の事例を紹介して頂きました。当日は会場にも教材の実物を 10 点ほど展示して、参加者に直に閲覧して頂いています。筑波大学の佐島先生（指導助言）からは、今後教材の数が増えてきたら、発達段階や教科のねらいから引けるような方向性にもっていくと良いとの示唆がありました。会場からは、提示された教材の使用頻度についての質問や、データベースの教材を使った側からの情報も得られる双方向でできないかという希望も出され、附属特別支援 5 校の専門的な知見を活かした様々な障害に対応するデータベースに多くの期待が寄せられています。

■JICA モンゴル研修

11月16日(月)～12月11日(金)にかけて、JICA 筑波が行っている「障がいのある子どもの為の授業づくり 2015」でモンゴル国から政府教育関係者、学校管理職など10名の方が特別支援教育研修として来日し、センターでは筑波大学障害科学域の協力を得て、研修、講義、授業参観等をコーディネートする形で協力をしました。研修生の方々は障害科学域での聴講、附属特別支援学校5校での授業見学、及び聴講、意見交換、



寄宿舍等の校内施設見学、児童生徒との交流などを行なう中で、久里浜の幼稚部素材遊びや小学部自立活動、視覚の幼稚部教材や小学部の図工、高等部専攻科の職業教育に高い関心を示し、聴覚では音楽の授業で「しあわせなら手をたたこう」の歌を小6児童と一緒に歌って楽しんだり、高等部専攻科の生徒作品に興味を示していました。また、桐が丘、視覚で



では児童生徒と一緒に給食を味わって頂きました。大塚では特に3日間の研修期間を取り、合同研究会を実施した他、小学部を中心にあつまりや体育、生活の授業、就労継続支援B型施設「工房わかぎり」見学がありました。学校訪問日では各学校の持つ知見に多くの質問が出され、研修生の方々の自国の特別支援教育の整備・充実に掛ける強い意欲が伝わってきました。また、今回の研修では、11月20日(金)午後、筑波大学障害科学域での講義聴講の合間に、モンゴルの方々から自国の特別支援教育、及び社会保障の現状と課題を説明して貰う時間を設定し、相互の理解をより深め合う新しい試みが為されました。

■附属ニュース（附属聴覚）

中学部2年生の家庭科の時間に、お隣にある和洋女子大学家政福祉学類の学生さん参加による授業を行いました。技術科の夏野菜の栽培の学習で栽培して冷凍保存したミニトマトを使って、「トマトケチャップ作り」に挑戦しました。イメージ通りの味を目指して、スパイスの選び方や調理方法のコツを学生さんにアドバイスしてもらいました。後日、調理実習でハンバーグステーキを作り、ソースに学生さんと作ったトマトケチャップを使用しました。ハンバーグステーキとあわせて食べることで、トマトケチャップがさらにおいしく感じられると感激する様子が見られました。（中学部 有友愛子）



学生さんとのケチャップ作り



トマトケチャップの食べ比べ



ハンバーグステーキ作り

■現職教員研修生日記

千葉県立君津特別支援学校 小野 勝

今年度、千葉県の長期研修生として、筑波大学特別支援教育研究センターで研究・研修の機会を与えていただき、感謝申し上げます。センターでの講義や演習、附属5校での参観、演習、研修生室での1人1台のPC使用、図書館の利用や資料の取り寄せ可能など充実した研修内容、制度になっています。また、指導教員の柘植雅義先生には大変ご多忙にもかかわらず、研究の基礎知識から、国内外の動向、ビジョンを持つ大切さ、わかりやすく伝えることなど幅広く丁寧に御指導いただき、深く感謝申し上げます。



私は現在、発話の困難な知的障害児にタブレット型端末を活用した支援に関して研究しています。事前の準備、検証授業中の見直し、評価やまとめ方など、今まで現場にいたときにはそこまで考えていなかったことが多く、研究の奥深さを実感しています。私自身まだまだいたらない点が多いですが、センターのスタッフや同じ研修生の仲間たちに支えられて、少しずつ前に進んでいると思います。残りの期間、最後のまとめに向けて駑馬十駕（どばじゅうが）の気持ちで一歩ずつ確実に進み、学んだことを現場でいかせるように努めたいと思います。

静岡県立沼津聴覚特別支援学校 鈴木 裕

桜の咲く暖かな気候とは裏腹に、不安や緊張で穏やかでない気持ちのまま、筑波大学特別支援教育研究センターの門をくぐった日のことを、鮮明に覚えています。日に日に、センターの先生方、大学の先生方、そして研修生とかかわる時間が増していき、今では季節や行事を感じながら、センターへ向かっている自分がいます。

これまで、センターでの研修や附属聴覚特別支援学校幼稚部での実習、他校への参観等、貴重な経験を数多くさせて頂きました。実習先では、学部の先生方や幼児だけでなく、保護者の方々にも温かく迎え入れて頂き、実習のしやすい環境を作って下さいました。5附属の演習では、センターの先生方による丁寧な資料、多くの教材・教具、細かな日程調整等様々な準備のもと、それぞれの障害や指導法について新たに学ぶことがたくさんありました。センターでの研修についても見通しを持たせて下さったり、先生方の経験談をお話して下さいとあらゆる視点からの御意見はとても参考になります。また、指導教官の左藤敦子先生には、自身の研修のための観察実習や学校見学、質問調査等についてたくさん支援して下さいました。そして、相談に乗って頂く度に左藤先生の持つ多くの引き出しの中からの確かな御指導・御助言を頂いています。恵まれた環境、与えられた時間、多くの方々の支えに本当に感謝しています。ありがとうございます。



センターの先生方、大学の先生方からは演習や講義だけでなく、普段何気なく話されている言葉の中にさえも、毎回新しい光が浴びせられている気がします。その光を少しでも多く吸収し、自分の言葉として次の春に向けて生かしていけるよう、残りの研修期間に励んでいきたいと思ひます。